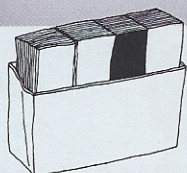


12



## Stellar Projects

ステラ・プロジェクト

9 ブルックリンを拠点に活動する女性アーティスト、ノリ・パオの個展『ダーク・サイド・ダウン』から。10 リーマン・ブラザーズが経営破綻した翌日にギャラリーをオープンしたというキャンディス・マディ。11 リビングトン・ストリートの現在のロケーションには2017年に移転。12 こちらも粘土を使ったノリ・パオの作品から。

1 Rivington St., New York ☎212-598-3012 12:00~18:00 日月火休

9



10



3

11



## Fortnight Institute

フォートナイト・インスティテュート

1 いわゆる美術館だけではない。革命詩をテーマにアーサー・フォルニエが歴史的印刷物を集めた展示は、抵抗運動が盛り上がる世相を反映。2 イースト・ヴィレッジならではの細長いスペース。3 オープニングにはアートコミュニティが集まる。4 アーティストのケイトリン・エイヒワルドを囲むオーナーのファビオラ・アロンドラ (左) とジェーン・ハーモン (右)。

60 E 4th St., New York ☎なし 13:00~19:00 (木14:00~) 月火水休



7



5



4

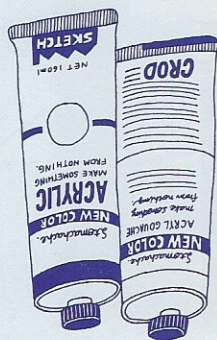
2

## Sara Kay Gallery

サラ・ケイ・ギャラリー

5 歴史を感じさせる小さいけれど珠玉のギャラリー。6 コンテンポラリーだけではなく。昨年はジャン・デュビュッフェとパブロ・ピカソの作品からなる個人コレクションを二人展として見せた。7 パワリーとイースト・ヴィレッジの境にある美しいブロックにある。8 アート界で20年の経験を積み、自分のスペースをオープンしたサラ・ケイ。特に女性アーティストの支援に力を入れる。

4 E 2nd St., New York ☎646-870-0138 11:00~15:00 土12:00~17:00 日月休



8



6

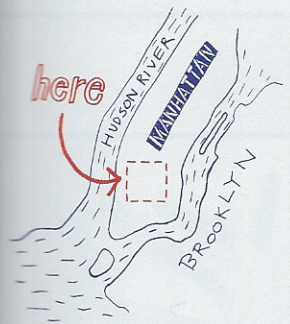
久しぶりにギャラリーのマップを作ろうと思ったときに、ふと、何年前かに読んだ、女性のギャラリーオーナーがいかに少ないか、という記事を思い出した。今、女性のギャラリーリストたちはどこにいるのか。

アート界ってやつはなかなかマツチヨな場所だ。女性が働きやすい業界といわれる一方で、苛烈な競争や権力争いがある。古くは自分の名前を冠したギャラリーを1977年に開けたメアリー・ブーンから、近年では、『ダイチ・プロジェクト』時代にダツシユ・スノウやダン・コーレンを担当し、2010年に『ザ・ホール』を開廊したキャシー・グレインソンのように、スーツ姿の男たちと対等にやってきた女性のギャラリーオーナーはいるけれど、これまではやっぱり希少な存在だったのだ。

2000年代後半には口ウワー・イースト・サイド (LES) にたくさんさんの新興ギャラリーが開廊。けれど金融危機がやってきて、多くのスペースが姿を消した。金融危機が起きた2008年にギャラリーを開けた女性が2人いる。ひとりには『レイチェル・ウフナー・ギャラリー』のレイチェル・ウフナー。チェルシーのギャラリーで受付からスタートし、ディレクターとなった彼女がスペースを開けたのは当時はちよっぴりラフだったオーチャード・ストリート

競争や権力争いに参戦する女性ギャラリーリストたち。





# & New York

Walk  
In  
**NYC**



佐久間裕美子の  
ウォーキン NY

VOL.57

文・写真 / 佐久間裕美子

NY在住ライター。在米22年目。著書に『ヒップな生活革命』(朝日出版)、『ピンヒールははかない』(幻冬舎)など。今年の夏はベルリン、沖縄、バンコクで。

area data

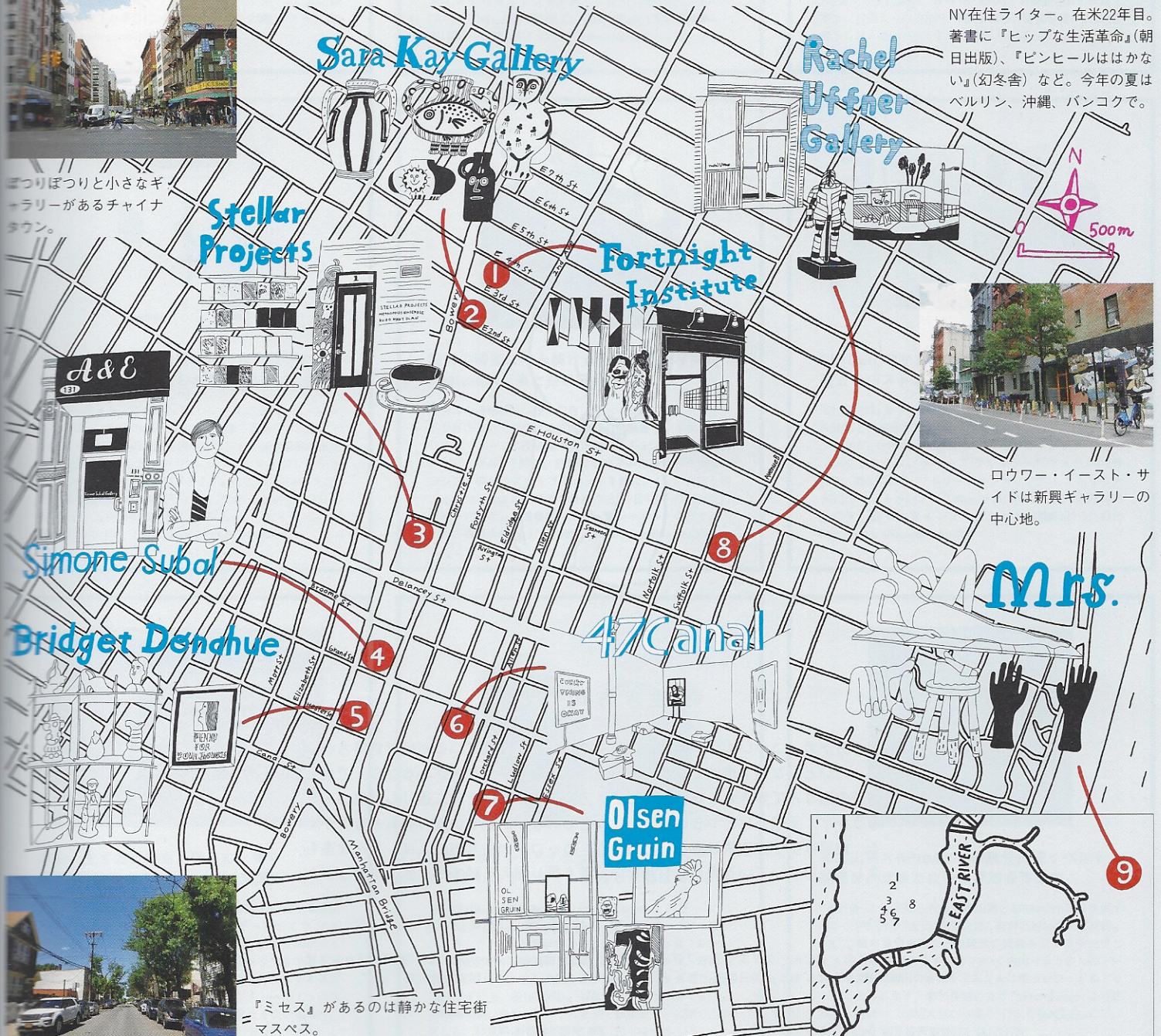
今回取り上げたギャラリーのうち6軒が、ロウワー・イースト・サイド。『フォートナイト・インスティテュート』と『サラ・ケイ』はイースト・ヴィレッジにあり、2016年にオープンした『ミセス』はクイーンズのマスベスに。マスベスには地下鉄7線のウッドサイド駅から徒歩かバスがタクシー。

ギャラリー

女性オーナーによる  
ギャラリーの楽しみ方。



ぽつりぽつりと小さなギャラリーがあるチャイナタウン。



ロウワー・イースト・サイドは新興ギャラリーの中心地。

『ミセス』があるのは静かな住宅街マスベス。